

現場
代理人
レポート

三方原用水二期農業水利事業

導水幹線水路トンネル 耐震補強工事

本地区は静岡県浜松市に位置する約3,300haを受益地とし、水稻や水田の畑利用(大豆等)のほか、畑での野菜、花き、果樹等の専作による農業経営が展開されています。かつて不毛の地と言われた三方原の台地は、前歴事業「国営三方原用水事業」によって安定的な農業用水が供給される農業地帯となり、全国トップクラスの農業産出額を誇る浜松市の農業を支えています。

天竜川(秋葉ダム取水口)を水源とする三方原用水は、1970(昭和45)年に完成しており、50年が過ぎ経年的な劣化が見られ、用水路の一部は耐震性を有していません。

三方原用水二期農業水利事業は老朽化した水路の改修と耐震化を目的として実施されており、本工事は導水幹線水路の耐震対策(トンネル補強工等)及び老朽化対策(空洞充填工、断面修復工等)を施工しています。

本導水幹線水路は、農業用水のみならず工業用水及び水道用水も供給している重要なインフラ施設です。本工事のトンネル内工事は10月6日～4月25日(非かんがい期間)に限られ、なおかつ1号トンネルから4号トンネルまでの区間は週一回の断水中(火曜日4:00から12:00)のみ作業可能という大きな制約を受けています。今後、10月から2回目のトンネル内作業が始まりますが、創意工夫し、引き続き気を引き締めながら、無事に工事を竣工させるよう職員一同全力で努めてまいります。



監督職員からのエール

本工事は三方原用水地区に農業用水、工業用水及び水道用水を供給する施設の耐震補強を主とする工事です。施工対象トンネルは1号トンネルから6号トンネルまで延長約16kmに亘っており、施工箇所が点在し工種も異なっていることから、現場管理や工程管理が非常に重要です。

トンネル内における作業時間の制約に加え、現場は山間部に位置しトンネル坑口部も急峻な地形であるため現場へのアプローチも索道による資機材運搬となるなど、市街地での工事とは違った厳しい制限がかけられています。

更に入路が限られ、地域住民の生活道路を工事入路として通行させていただいている中、現場代理人の藤澤さんには的確な安全対策や地域とのコミュニケーションにより無事故で工事を進めていただいております。

10月には非かんがい期を迎え工事が再開されます。引き続き無事故・無災害で工事が完成するよう期待しています。

現場代理人

(写真右) 西松建設株式会社 関東土木支社

三方原出張所長 藤澤 秀樹

監督職員

(写真左) 関東農政局 三方原用水二期農業水利事業所

技術専門官 永野 佳子

